

バックナンバー

歴史神学研究 創刊号 (2017年12月)

目次

歴史神学研究創刊に寄せて・・・関川泰寛

《研究論文》

- 歴史神学の方法論の一考察・・・関川泰寛
- 殉教者ユスティノスによる『新しい契約』の理解・・・富田雄治
- 『アレイオス派駁論』におけるアタナシオスの救済論（上）・・・安井 聖
- キプリアヌスの教会論・・・本城仰太
- ジョン・ウィリアムソン・ネヴィンの信条主義的神学にみる19世紀前半の米国におけるリヴァイヴアル主義と信条主義の対立の様相・・・藤野雄大

《書評》

- Peter W. Martens, *Origen and Scripture – The Contours of the Exegetical Life*, Oxford, 2012.)・・・堀江知己
- The Cambridge Companion to Reformed Theology. Eds. by Paul T. Nimmo and David A.S. Fergusson. New York, NY: Cambridge University Press, 2016. pp. 345.・・・飯田仰

歴史神学研究 2号 (2018年12月)

目次

《研究論文》

- 『アレイオス派駁論』におけるアタナシオスの救済論（下）・・・安井 聖
Athanasius' Soteriology in *Orationes Contra Arianos* (Part 2)
- ドナティスト論争におけるアウグスティヌスの教会論— 教会が「聖」であるとは、どういうことか—・・・本城仰太
- 聖霊の神学者としてのカルヴァン・・・関川泰寛

《原典、研究論文翻訳》

- オリゲネス『サムエル記上説教』 —エルカナ、ペニナ、ハンナ、サムエル、エリ、ホフニ、ピネハスについて（堀江知己訳）
- 誠静怡と中華基督教会—真に本色化した合同教会の実現を目指して・・・王晓静（松谷洋介訳）

《書評》

- Andrew Louth, *Introducing Eastern Orthodox Theology* (Downers Grove, IL: IVP, 2013).・・・富田雄治

歴神学研究 3号 (2019年12月)

目次

《研究論文》

- 『トリュフォンとの対話』における創世記15章6節の使用と「義」の概念の変化・・・富田雄治
- 使徒信条成立研究の最近の動向・・・本城仰太
- アタナシオス神学における神論と救済論の関係についての考察 上・・・安井 聖
- カエサリアのバシレイオスのキリスト理解について
—エウノミオスへの反駁を手がかりとする—考察・・・飯田仰
- 宗教改革者ジョン・ノックスにとってのジョージ・ウィシャルトの存在・・・伊勢田奈緒

《原典翻訳》

- オリゲネス『サムエル記上説教』 —エルカナ、ペニナ、ハンナ、サムエル、エリ、ホフニ、ピネハスについて (続) (堀江知己訳)

歴史神学研究 4号 (2020年12月)

目次

《研究論文》

- ユスティノス『第二弁明』の諸問題: D. MinnsとP. Parvisの二つの提案について・・・富田雄治
- アウグスティヌスのペラギウス論争—自然本性、神の像をめぐる—・・・本城仰太
- カルヴァンにおける福音の偽装と信仰・・・関川泰寛
- 再洗礼派に対するカルヴァンの反駁書 (1544年) に関する一考察
—カルヴァンと再洗礼派はどこで根本的に違っているか— (上)・・・長手陽介
- ジョン・ノックスとメアリ女王の会見の意義についての一考察・・・伊勢田奈緒
- サクラメントと国家儀礼 —植村正久をめぐる—・・・尾崎二郎

《原典翻訳》

- オリゲネス『サムエル記上説教』 (第3回) —エルカナ、ペニナ、ハンナ、サムエル、エリ、ホフニ、ピネハスについて (続) (堀江知己訳)

歴史神学研究 5号 (2021年12月)

目次

《研究論文》

- 戦後のユスティノス研究: 四つの分野における重要な貢献・・・富田雄治
- カルヴァンにおける悪の問題 (上)・・・関川泰寛
- 「ハンガリーのルター」と呼ばれるデーヴァイの目指した改革・・・伊勢田奈緒